

# みず あそ 水と遊ぶ？

## みず の くら 水を飲み比べてみよう

昨今は水ブーム。ペットボトル入りの飲料水、水道の蛇口に取り付けた浄水器は、私たちの生活の中では今や当たり前のものとなってしまいました。皆さんお一人お一人も、清涼飲料水でもスポーツドリンクでもない、ただの水を買って飲まれたことがあるのではないのでしょうか。飲用水のボトルには、分析された成分表がついています。それをご覧になったことはありますか？フランス産の水も含めて、この成分を比較してみたことはありませんか？また、有名な飲用水の国内産地、「六甲」、「安曇野」、「白州（南アルプス）」、何か共通点を感じませんか？

松本の水はおいしいですか？大学の学生の皆さんに聞いてみました。答えはほぼ半々でした。信州はきれいな空気と大自然に育まれた源流の郷。100%の皆さんに、おいしいと答えてもらえるような豊かな自然環境を保ちたいものです。今年も例年同様に、測定された化学成分を比較しながら、水を飲み比べたいだこうと思っています。長野県内には、環境省指定の名水百選に選ばれた水が3箇所あります。姫川源流、安曇野わさび田湧水と飯田市猿庫の湧水です。これ以外でも、例えば松本市内の湧水には、お酒の醸造に使われているものもありますし、名前はついていなくても、人気の“名水”が数多くあります。

本来ならば水道水や市販の飲料水とあわせて、このような県内各地の天然水（湧水・井戸水や山間部源流域の水）を比べていただきたいところですが、おなかを壊してもいけませんので、それはほどにしましょう。

水一中でも飲用水は一今では立派な商品です。ヨーロッパでは、水筒や水を入れたボトルを持ち歩くのがずいぶん前から当たり前でしたし、レストランでは、テーブルの上にミネラルウォーターがおかれていて、下手に栓をぬくと、コーラと同じくらいの料金を取られてしまいます。昔から飲料水には不自由することなく、店に入って座れば、黙っていても最初に冷たい水が出てくる、こんな光景はいつごろまで続くのでしょうか。

ところで松本盆地は、年間平均降水量が800 mmほどで東京の半分しかありません。そのかわり、3,000m級の北アルプスや2,000mを超える美ヶ原に降る雨や雪のおかげで水には恵まれています。松本市や塩尻市の主な水道水源となっている奈良井川は、中央アルプスから流れ出したもので、夏の渇水期でも豊かな水量をたたえています。北アルプス前山の山すそに入れば、さわやかな沢の水が登山客やハイカーののどを潤してくれます。安曇野では年中水温の変わらない湧水のおかげで平地でもわさびが作られています。

空からやってくる水は、大雨や台風ともなれば洪水や土砂崩れを引き起こし、降らなければ早魃で農作物に多大な被害を及ぼします。水とうまく付き合うこと、それはこれまで以上に大切になっているように思われます。

